

報道関係者各位

【参考資料】

2020年5月29日
ボストンコンサルティンググループ

2019年までの5年間における企業価値創造に優れた大型企業ランキングを発表 日本企業ではリクルートホールディングスが10位に～BCG調査

5年TSR上位の業種はコロナ危機下の株価下落幅も限定的

経営コンサルティングファームのボストンコンサルティンググループ(以下、BCG)は5月8日、企業価値創造に優れた大型企業のランキングの最新版を発表しました(「[The 2020 Value Creators Rankings](#)」)。同資料には、2015～2019年の年平均トータル・シェアホルダー・リターン(TSR、株主総利回り)に基づく大型企業のランキングなどが掲載されています。これは、2,300社以上の調査対象企業のうち、2019年末時点での時価総額上位200社を対象としたランキングです。

大型企業ランキングでは10位以内にランクインしたアメリカ企業が減少、「多様性」がキーワードに

本年のランキングでは、地域別、業種別のどちらで見ても、「多様性」がキーワードとなりました。本社所在地別で見ると、大型企業ランキングの上位10社では、昨年はアメリカ企業7社、アジア企業2社、ヨーロッパ企業1社だったのに対し、今年はアメリカ企業4社、アジア企業とヨーロッパ企業がそれぞれ3社となりました(図表1)。大型企業上位100社のランキングの内訳でも、昨年との比較で、アジア企業55社→42社、北米企業28社→29社、ヨーロッパ企業14社→19社とアジア企業への偏りが小さくなっています。日本企業では、リクルートホールディングスが10位に入りました。

図表1: バリュークリエイターズ・ランキング - 世界の大型企業
企業価値創造に優れた企業ランキング (対象: 時価総額上位200社、期間: 2015～2019年)

順位	企業名	本社所在地	業種	業種内順位 ¹⁾	時価総額(億ドル) ²⁾	5年平均TSR(2015-2019年、%)	2020年TSR(%) ³⁾
1	NVIDIA	アメリカ	テクノロジー	2	1,440	64.8	21.7
2	Kweichow Moutai	中国	非耐久消費財	1	2,134	49.4	5.2
3	Wuliangye Yibin	中国	非耐久消費財	2	741	46.8	-2.0
4	Netflix	アメリカ	メディア・出版	2	1,418	46.0	30.2
5	Amazon	アメリカ	小売 ⁴⁾	2	9,162	42.8	27.9
6	Sberbank	ロシア	銀行	1	882	41.0	-25.3
7	Adidas	ドイツ	ファッション/ラグジュアリー	4	638	40.2	-28.6
8	Adobe	アメリカ	テクノロジー	5	1,591	35.3	2.1
9	Kering	フランス	ファッション/ラグジュアリー	6	821	34.3	-20.1
10	リクルートホールディングス	日本	サービス	11	622	30.6	-31.6

1. 同業種企業内での順位。全調査企業が対象

2. 2019年12月31日時点

3. 2020年1月1日から4月22日まで

4. Amazonは、過去のレポートとの整合性を取って小売に分類したが、現在の同社のポートフォリオを勘案すると、テクノロジーに分類するのが妥当な可能性がある

注: 2019年12月31日時点での時価総額世界上位200社を対象。対象企業の時価総額の最少額は595億ドルだった

出所: S&P Capital IQ、Refinitiv、ボストンコンサルティンググループ バリュースイエンسセンター®

© Boston Consulting Group 2020 - All Rights Reserved.

テクノロジー、メディア関連企業の上位独占はならず、ファッション業界からもランクイン

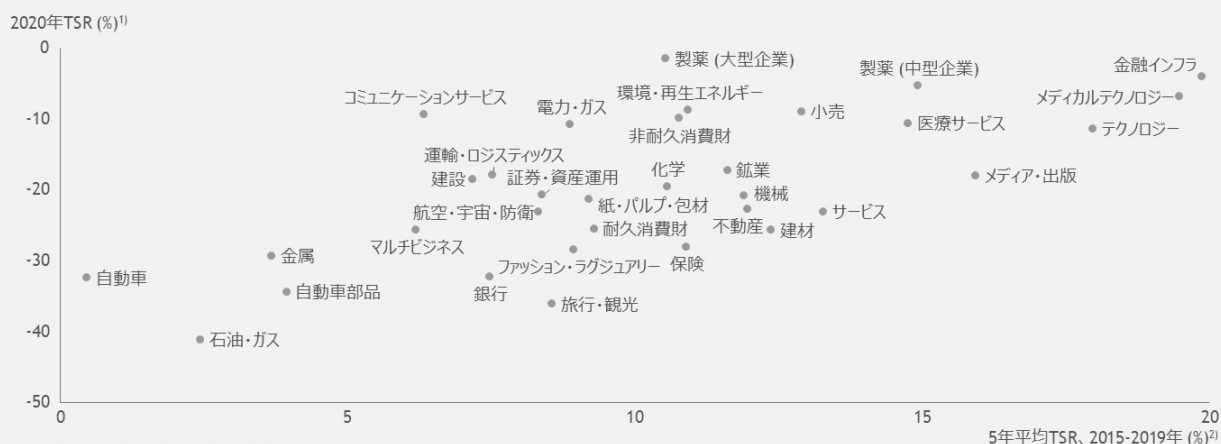
前回まで圧倒的な強みを見せていたのはテクノロジー、メディア関連企業ですが、今回は他業界からも多く上位に入りました。テクノロジー、メディア関連企業は上位 10 社中、Amazon(アメリカ)を含めると 4 社となりました(前回は 6 社、前々回は 9 社)。昨年は上位に入らなかったファッション業界の企業は、Adidas(ドイツ)が 7 位、高級ブランドを傘下に持つ Kering(フランス)、LVMH(フランス)がそれぞれ 9 位、18 位となる躍進を見せました。

5 年 TSR 上位の業種は、コロナ危機下の 2020 年も株式市場下落の影響を小さくとどめる

5 年間の TSR の中央値を 33 の業種別に算出した際に上位に位置する「金融インフラ(19.9%)」「メディカルテクノロジー(19.5%)」「テクノロジー(18.0%)」等の業種は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で株式市場が低迷する 2020 年においても、その影響を小さくとどめていることが分かりました。こうした業種の企業は、最先端のテクノロジー、大量のデータ、高いイノベーション力を有しているため、景気拡大期の株価の上昇率が高いだけでなく、逆境においても回復力をそなえていると考えられます。全体的に見ても、過去 5 年間の業種別 TSR と 2020 年の年初から 4 月 22 日までの業種別 TSR には有意な相関がありました(図表 2)。

全調査対象企業 2,327 社の 2015~2019 年の 5 年間の年平均 TSR の中央値は 9.6%と、前回に引き続きグローバルでの資本市場の長期的なリターンに近い水準でした。

図表2: 5年TSR上位の業種は、株式市場低迷の影響を相対的に小さく抑えている



1. 2020年1月1日から4月22日まで

2. 報告通貨基準

注: R²=0.66

出所: S&P Capital IQ, Refinitiv, ボストンコンサルティンググループ バリュースサイエンスセンター®

© Boston Consulting Group 2020 - All Rights Reserved.

■ 調査レポート

「The 2020 Value Creators Rankings」

<https://www.bcg.com/publications/2020/interactive-value-creators-rankings.aspx>

■ 調査の概要

トータル・シェアホルダー・リターン(TSR、株主総利回り)とは、企業価値創造の測定指標です。ある一定期間における配当と株価の値上がりの総利回り、株主にとっての投資収益性を示します。本調査ではグローバルで 33 業種の 2,327 社を対象に 2015~2019 年の 5 年間にわたる年平均 TSR を分析しました。BCG では、同種の調査を 1999 年より継続して行っており、今回が 22 回目の調査となります。

■ 日本における担当者

加来 一郎 マネージング・ディレクター&シニア・パートナー



BCG プリンシパルインベスター&プライベートエクイティグループのアジア・パシフィック地区リーダー、およびコーポレートファイナンス&ストラテジーグループの日本リーダー。産業財・自動車グループ、グローバル化戦略グループのコアメンバー。住友商事株式会社、外資系コンサルティングファーム、PE ファンドを経て現在に至る。

■ ボストン コンサルティング グループ (BCG) について

BCG は、ビジネスや社会のリーダーとともに戦略課題の解決や成長機会の実現に取り組んでいます。BCG は 1963 年に戦略コンサルティングのパイオニアとして創設されました。今日、BCG の支援領域は、変革の推進、組織力の向上、競争優位性構築、収益改善をはじめとしてクライアントのトランスフォーメーション全般に広がっています。

BCG のグローバルで多様性に富むチームは、産業や経営トピックに関する深い専門知識と企業変革を促進する洞察を有します。これらに加え、テクノロジー、デジタルベンチャー、パーパスなどの各領域の専門組織も活用し、クライアントの経営課題に対しソリューションを提供します。経営トップから現場に至るまで、BCG ならではの協働を通じてクライアント組織に大きなインパクトを生み出しています。

日本では、1966 年に世界第 2 の拠点として東京オフィスを、2003 年には名古屋に中部・関西オフィスを設立しました。

<https://www.bcg.com/ja-jp/default.aspx>

■ 本件に関するお問い合わせ

ボストン コンサルティング グループ マーケティング 直江・嶋津・福井

Tel: 03-6387-7000 / Fax: 03-6387-0333/ Mail: press.relations@bcg.com